

企画展

ひな
雛
の
道
具
ど
う
ぐ

平成23年2月1日(火) - 3月21日(月)

- 開館時間 9時-17時(入館受付は16時30分まで) 月曜日休館(祝日の場合は翌日休館)
- 入館料 一般300円 高校生200円 小・中学生無料、友の会会員無料
- 障害者手帳提示の方・付添者・引率者 無料
- 団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方等 2割引
- 主催 財団法人 林原美術館
- 後援 岡山県郷土文化財団 山陽新聞社 RSK山陽放送
- ギャラリートーク 会期中の土曜日14時から
- スペシャルギャラリートーク 3月5日(土)



梅若松時絵雛道具の内 厨子棚



剣草漿草紋時絵雛道具の内 輿



若松剣草漿草源氏車紋雛道具の内 楽器類 (琵琶・太鼓・笙・龍笛・羯鼓)



梅花時絵雛道具の内 楽器類 (琴・三味線・胡弓)

林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

企画展 ひな 雛の道具 どうぐ

本展覧会では林原美術館所蔵の備前池田家に伝わる雛の道具を展覧します。

雛の祭りは、古来女子の健やかな成長を祈る祭りとして行われてきました。古くは祓の道具である人形(ひとがた)に自分の罪を託し、川や海に流す風習がありました。平安時代には、赤子に病気や災いが降りかからないようにとの願いを込めて、その身代わりとして枕元に「天児」や「這子」の人形を置きました。また正月七日(人日)・三月三日(上巳)・五月五日(端午)・七月七日(七夕)・九月九日(重陽)などの季節の変わり目の節句のときに、人に災いをもたらす邪気をはらう行事を行いました。この節句の行事と子供の成長を願う天児や這子の人形などが結びつき、室町時代の中ごろに、三月の節句に雛祭りが行われるようになります。江戸時代には男女一對の雛人形を飾るようになり、雛

祭の普及とともにそれに附属する雛道具も豪華になりました。

備前池田家には婚礼調度を精巧に模した豪華な雛の道具が伝来しています。これらは厨子棚・黒棚・書棚をはじめとし、化粧道具や茶の湯道具などが揃えとされており、輿入れの際に持参されました。そして貝遊びの合貝は七百二十二枚全てが揃っており、こまやかな金彩にいろどられています。その他の雛道具にも細部にいたるまで華麗な装飾がほどこされています。また雛飾りの道具だけではなく、姫君たちが実際に「ひなあそび」として遊んだと思われる道具類や、ままごとの道具や人形も展示します。いずれも小さな道具類ですが、思わず引き込まれる魅力的な世界でもあります。

女子の健やかな成長と幸せを祈りつつ、本展覧会を御覧ください。幸いでは。



破七宝繫丸十字牡丹紋蒔絵雛道具の内 提重・傘



豆人形



人形



犬張子



梅若松蒔絵雛道具の内 合貝 (722枚の内)

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

* 車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁前下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告

企画展

「はなやかな屏風」(仮称)

平成23年4月3日(日)~5月29日(日)

屏風は日本の邸宅を飾る大切な道具です。さまざまな屏風の中から、今回は世界地図を描いた珍しい屏風をはじめ、松竹梅のテーマ、鳳凰と唐獅子をテーマとする晴れがましい華やかな屏風を中心に展示します。